

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

実施報告書

プログラム名	教職大学院と教育委員会の連携による「ミドルリーダー養成研修プログラム」の開発と教職大学院カリキュラム（地域科目）の創造
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none">山口県教育委員会との連携協力のもと、教職大学院（院生と教員）が、ミドルリーダー養成研修プログラムを開発し、教員（若手～中堅）のミドルリーダーとしての資質能力を高めるものであること。教職大学院は、プログラムの実施に際して、教職大学院の特徴、機能やリソースを積極的に活用し、「地域科目」を中心とする教職大学院の新たなカリキュラム開発につながるものであること。プログラムでは、教職大学院の課題解決プロジェクト研究（現場における教育課題や地域課題を反映）の発表・公開や講演・講義演習等からなる「講義演習型研修」や「ピア・サポート」を積極的に導入し、ミドルリーダー養成研修の実効性を高めるものであること。 また、教職大学院（学校経営コース）院生現任校（7箇所）を巡回する連続講座として行い、現任校や近隣学校の教職員等にも広く開放することにより、地域における教員研修の充実深化や、「学び続ける教師」に向かう研修機運の醸成を図るものであること。これまで本学が取り組んできた教員養成・教員研修プログラム「ちゃぶ台方式による協働型教職研修計画」の経験、実績や教訓をもとに、日頃の教育実践の多面的多角的視点からの省察力や、教育実践を共有し伸ばし合う豊かな同僚性を育てようとするものであること。県教委・市町教委との協働や学校現場での教職協働実践を充実させ、受講生のミドルリーダーをめざす教職実践や学びを支援するとともに、教員養成や研修に対する大学等教員の意識改革に資するものであること。実施にあっては、本学（学部）と山口県・山口市教委で構成する「教育連携推進協議会」のもと、大学教員、県教委担当者、教職大学院生代表や受講者代表で構成する「実行委員会」と「運営委員会」を組織して推進することとし、実際や成果は「山口県教員養成等検討協議会」等を通して、全県域の人材育成の充実深化に大いに寄与するものとして取り組むものであること。

平成29年3月

山口大学

山口県教育委員会

プログラムの全体概要

本プログラムは、本年度開設した教職大学院（教育学研究科教職実践高度化専攻）が実施主体となって、公募型ミドルリーダー養成研修プログラムを実施することにより、若手から中堅教員のみドルリーダーとしての資質能力を高めることを目的としたものである。

ミドルリーダーには、組織運営や学校経営の現状を正しく見極め、見えにくい課題をあぶり出し、その解決に向かうこと、組織内の役割分担、連絡調整や同僚に対する指導助言や支援ができること、そして、豊かな人間関係を築き、組織を前向きに元気づけること等の能力が必要と考える。本プログラムはそれら資質能力の獲得に資するモデルプログラムである。

同時に、本プログラムは、教職大学院の地域協働・課題解決型カリキュラムの開発に資する試行的取組でもある。教職大学院は、本プログラムを教職大学院が開設する「地域科目」として授業化し、教職大学院の特徴、機能、リソースや地域の教育資源、社会環境、地域特性等とつないだ内容構成とする必要がある。

そこで、本プログラムでは、教職大学院の責任として受講者のミドルリーダー、ヤングリーダーとしての課題解決力、組織的協働力、人間性等の育成を図ることに加えて、様々な教育課題の解決のためにも山口県や県内各地の教育の現状、課題、諸施策等を具体的に学ぶことが必要との考えを個別の研修プログラム（研修行事）に反映した。本プログラムは地域とつながる教職大学院を具現化する授業モデルとして提案するプログラムである。

研修プログラム（研修行事）では、教職大学院の課題解決プロジェクト研究（学校や地域における教育諸課題を反映したもの）の発表や講演・講義演習等からなる「講義演習型研修」と「ピア・サポート」を取り入れた研修会を毎年10回実施しながら、実効性の高いミドルリーダー養成研修モデルを構想してきた。研修会での研修内容やテーマ設定に際して、地域（山口県）が抱える教育諸課題を意識的に導入することに加えて、教職大学院生（現職教員院生）の現任校のある地域を会場とした県内巡回型公開講座を開始し、地域の教職員に開放することとした。県内各地教職員研修活性化への寄与、山口県教育への貢献、大学と市町教育委員会の連携・協働等のあり方の試行として大いに提案するものである。次項より具体的に報告する。



I はじめに

現在、教育委員会と大学が連携・協働し、養成段階から教職生活全体を通じた学びを支援し、教員の資質能力の向上に努めること、そして、大学と教育委員会が連携して教員研修プログラムを開発することが求められている。大学が有する知見を積極的に活用した教員研修の活性化、実効性高い研修プログラムの開発に加えて、大学と学校等とが結びついた実践的研究の拡大、理論と実践の往還による養成・現職教員教育の充実や教職員の意識改革等が求められている。

山口県は、教員の大量退職・大量採用に伴う熟練教員の減少、若手教員の増加が進み、県教育を支えてきた教員たちが積み重ねてきた教員文化や教育力の伝承が課題となっている。同時に、全国的な教員採用志願者数の伸び悩み、採用試験合格倍率の低迷等の中で、残念ながら、実践的指導力が十分に身につけていない者や、多様化、複雑化、高度化する諸課題に適切に対応できない者も見られる。若手教員には、採用直後から即戦力としての働き、教員としての質の向上が求められるとともに、そのような若手教員に身近で接し、同世代、少し上の世代として、人材育成の観点から支持的・連带的に牽引できるミドルリーダー、中堅教員の存在が不可欠と言える。



そこで、山口県教育委員会は、大学と教育委員会が一体となって養成・採用・研修の取組を推し進めるため、教職課程を有する県内全大学と県・市町教育委員会、学校等で構成される「山口県教員養成等検討協議会」を設置し、高い志、意欲や実践的指導力をもち、自信と勇気をもって教壇に立ち続ける教員を育てる体制づくりや取組を進めている。まさに時宜を得た取組である。

そして、山口大学（教育学部・教育学研究科）は、山口県を中心とする地域の教員養成と研修を中核的に担う総合大学（教員養成学部・研究科）としての役割や意義を深く自覚し、教員養成に特化した学部改組、実践的指導力向上に資する教職カリキュラム改革や全学教職センター開設等を積極的に押し進めるとともに、本年度、念願の教職大学院（教育学研究科教職実践高度化専攻）を開設した。院生たちは、現職教員院生が学ぶ「学校経営コース」と学部卒院生が学ぶ「教育実践開発コース」に分かれ、学校及び地域の教育諸課題に関する理論的・実践的力量や学校現場における指導的力量の向上に真剣に取り組んでいる。

その際、学校や地域を「学びのフィールド」とする課題解決プロジェクト研究においては、地域（山口県や市町）における教育課題や山口県教育の先進性等を内容とする地域科目の開設が必須であること、これらの科目の実効性向上には、山口県や市町の現代的教育諸課題に焦点をあてた実践的な教員研修プログラムや研修行事等との相乗が効果的と考えられること等から、以下のとおり、本プログラムの開発を行うこととした。

山口大学（教育学部・教育学研究科）は、山口県教育委員会や市町教育委員会と今後ますます連携・協働し、地域の学校教育、学校運営や教育全般にわたり大いに貢献する覚悟である。

ここに、共に開発したミドルリーダー、中堅教員養成研修プログラムの実際を具体的に報告し、全国各地の大学や教育委員会による教員研修の活性化に寄与したいと願うものである。

	<p>開発プログラム名</p>
<p>教職大学院と教育委員会の連携による 「ミドルリーダー養成研修プログラム」の開発と 教職大学院カリキュラム（地域科目）の創造</p>	
	

II 開発の目的・方法・組織

1. 開発の背景や問題意識

(1) 山口県におけるミドルリーダー、中堅教員養成の意義から

山口県は、教員の大量退職・新規採用教員の増加期にあり、今後10年間に半数近く of 教員が入れ替わる。先輩教職員が積み重ねてきた教員文化や教育力の伝承は大きな課題である。

また、教員希望者数の横ばいと教員採用者数の増加は志願・合格倍率にも影響を与え、結果として、実践的指導力が十分身につけていない者や、多様化、複雑化する教育課題に十分対応できない者も見られる。採用直後から高い専門性をもつ教員の育成や教職キャリアステージ各期に相応しい職能発達に対する支援等をとおして、「学び続ける教師」としての資質能力の向上を図ることは喫緊の課題と言える。

こうした中、山口県教育委員会では、教職課程を有する県内全大学や県・市町教育委員会と学校等で構成する「山口県教員養成等検討協議会」が設置され、大学と教育委員会が一体となり教員の養成・採用・研修に取り組んでいる。

その中で大きな課題がミドルリーダー、中堅教員の養成である。これまでの中堅教員は、同僚教員との協働実践、児童生徒や保護者等との関わりを通じて教員としての資質能力を向上させ、学級・教科担任、学年主任、分掌主任等の経験を積み重ねる中でミドルリーダーとしての力量形成を図ってきた。しかし、分掌主任や校務推進役として活動する機会に乏しかった現状に加え、今後はミドルリーダーとして期待される相当年齢も下がると予想される。早い段階から組織のリーダー的視点をもって教育指導や分掌経営ができる人材を養成することが必要であり、大学と教育委員会は連携・協働して、現職研修プログラムの改善、高度化を図り、計画的、継続的なミドルリーダー、中堅教員養成に取り組まねばならない。

また、学校組織は、年齢や指導力等の差や違いによらない横並び（水平コミュニケーション）を基本とする組織性と、教員各個が学年・教科・校務分掌等にまたがり複数業務を兼任する態様を基本とする組織性が相互に絡み合う。校長、教頭等管理職のマネジメント能力が問われることは論を俟たないが、同時に、自ら学級・教科担任として勤務しながら、学年、校務分掌や教科部会等をリードし、年齢、指導力や学年、分掌を乗り越えた「コーディネーター」、「アドバイザー」として生き生きと働くミドルリーダーの存在は学校組織を活性化し、教職員に元気と活力を与えるものである。ミドルリーダーには、組織運営や学校経営につながる基礎知識や技能の修得、組織内の連絡調整に加えて、他の教職員に対し同僚的、連帯的に指導助言ができる能力が必要となる。

学校全体のマネジメントを意識し、人材育成の視点をもって組織経営や分掌運営にあたる人材、若手教員から「憧れ」の眼差しで慕われる人材の育成が今後の学校経営・運営を左右すると考え、本プログラムを開発することとした。

(2) 地域とつながり、地域に貢献する教職大学院の開設を契機に

山口大学は、本年度（平成28年4月）、教職大学院（教育学研究科教職実践高度化専攻）を開設した。本学教職大学院の目的は、OJD（On the Job Development）による学校現場の課題解決プロジェクト研究をとおして、学校及び地域の教育諸課題に関する理論的・実践的力を高め、学校現場における指導的役割を担い得る人材を養成することにある。

その中では、これまでの職務経験、学習歴や両コースの人材育成像をふまえ、現職教員院生（中堅教員）が学ぶ「学校経営コース」と学部卒院生が学ぶ「教育実践開発コース」を編成し、両コース院生とも学校現場を「学びの原風景」とし、県・市町域教育課題や地域課題とつながりながら、学校課題の解決をとおした実践研究を行っている。

その実践研究の充実に向けては、地域の教育課題や県・市町特有の地域課題の理解が必要となる。そこで、教職大学院では、各科目や領域を横断的・総合的に取り扱う科目として、山口県や市町における教育課題や山口県教育の先進性等を内容とする「地域科目（山口県教育の現状と課題、学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践AB）」を開講すること

とした。

その科目構想においては、本学が平成16年度から積み上げてきた教員養成・研修プログラム（ちゃぶ台プログラム）や、県・市町域研修行事等と融合・相乗させることが可能との考えから、本プログラムを開発することとした。

(3) これまでの連携・協働を一層拡充する取組として

山口大学教育学部と山口県教育委員会、山口市教育委員会は、平成17年12月に「山口大学教育学部・山口県教育委員会、山口市教育委員会の教育連携推進協議会要綱」を定め、教員養成・研修にかかる協議会の設置、各機関実施事業の報告、次年度協働事業の計画や実施等を行ってきた。人事交流面でも小中学校教員（交流人事教員）の採用が進み、平成18年度に1人が採用された。平成20年度からは2人、平成27年度からは3人に増員され、日常的な研究協議や情報・意見交換が行われている。

次に、教職大学院についても、開設の構想・準備段階から緊密な連携がなされ、制度設計、環境整備、対外交渉、人事措置等様々な面で格段の支援を得てきた。「学校経営コース」への現職教員派遣では、連携・協働の結果、関係市町教育委員会や学校等との折衝や調整もスムーズに進み、有能有望な現職教員院生の派遣を得ている。

また、山口大学は、平成17年度以降「ちゃぶ台方式による協働型教職研修計画（ちゃぶ台プログラム）」に取り組み、教職志望学生・大学教員・現職教員・教育行政担当者・教育関係者等との協働による教員養成・教員研修事業の活性化を図っている。ここでも山口県教育委員会とは緊密に連携・協働し、特に人材育成・教員研修のベクトル共有に努め、平成21年度以降、（独）教員研修センター「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」や「教員の資質向上のための研修プログラム開発事業」を共に開発してきた。

現在、大学と教育委員会の連携・協働による教員の養成・採用・研修の一体的取り組みが大いに期待されている。今後より一層の拡充を図るため、本プログラムを協働して開発することとした。

2. 開発プログラムの目的、内容と方法等

(1) 開発プログラムの目的

本プログラムでは、教職大学院が実施主体となって、公募型ミドルリーダー養成研修プログラム「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course」を実施し、受講教員（若手～中堅）のミドルリーダー、中堅教員としての資質能力を高めることを目的とした。

同時に、教職大学院は、本プログラムを教職大学院が開設する「地域科目」として位置づけ、教職大学院の特徴、機能やリソースを積極的に利活用した地域協働・課題解決型の教職大学院カリキュラム開発につなぐことを目的とした。

また、本プログラムでは、教職大学院の課題解決プロジェクト研究（現場における教育課題や地域課題を反映）の発表・公開や講演・講義演習等からなる「講義演習型研修」と「ピア・サポート」を積極的に導入し、ミドルリーダー養成研修の実効性を高めるとともに、教職大学院生（現職教員院生）の現任校のある地域を会場とした県内巡回型公開講座を導入し、地域の教職員等に開放することにより、県内各地の教員研修の活性化に寄与、貢献することを目的に加えた。

(2) 開発プログラムの対象

本プログラムの研修対象は、正規採用（本務）教員経験 3年目頃から10～15年目頃までの現職教員とし、公立・私立学校を問わず、連携プログラムである「ちゃぶ台次世代コーホート」修了者や公募により決定した受講者により研修組織を立てることとした。

また、県内巡回型公開講座の導入により、地域（会場校や隣接学校等）の教職員、教育関係者や教育委員会職員等にも開放し、各対象研修としても機能するようにした。

同時に、教職大学院科目「山口県教育の現状と課題」受講者も参加させることとした。教職大学院は、その教育課程編制にあたり、デマンドサイドのニーズに応える授業科目の開設

や配置を行うこととしている。「山口県教育の現状と課題」は、山口県教育委員会の教育重点課題をもとに、学力向上、キャリア教育、教育の情報化・高度化、人間関係づくり、校種間連携や地域と共にある学校づくり等の内容について実践的に研究する科目として開設しており、受講による学修効果は高いと判断した。

加えて、公募による参加する現職教員が見せる自発的、意欲的な研修態度は、まさに「学び続ける教師」の具現化としてあり、教職大学院生、特に学部卒院生にとっては「目指すべき教員モデル」として、現職教員院生にとっては「進歩し続ける教職仲間 (CO-fort)」として傍にあると考え、共に研修組織を立てる仕組みにした。

(3) 開発プログラムの構成

本開発プログラムの主となる研修行事「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course」は、以下の個別研修プログラムで構成した。

① 招聘講師等による講義演習

受講者がミドルリーダーとして身につけるべき研修課題として、実行委員会や運営委員会が提示し課題研修を行った。この研修では、県や市町が有する現代的教育課題（山口県課題）の現状や課題、分析や解決に向けた提案等を積極的に取り上げ、地域密着型の課題研修プログラムとして展開した。（必要課題）

また、受講者が日々の教育実践や学校運営を振り返り、「目指す学校像」や「求める教員像」等と関連した研修課題や実践事例を持ちより、自主的・自発的・連带的にミドルリーダーへの道を歩む研修を行った。研修会では、次回の研修課題を受講者相互の協議で決定し、実践事例や現状分析等を行ってきた。（要求課題）

② 実地指導研修（学校現場での課題研修、協働実践を含む）

指導助言力や表現力等の向上に資するとともに、受講者自らの教育実践や研修成果を開示・提供しながら「教えることにより学ぶ」研修を行った。分掌主任の擬似的体験や「ちゃぶ台次世代コーホート」を活用した若年教員への指導助言体験等を行った。

また、学校現場での実地研修や大学教員等との協働による課題研修、協働実践等を行う中で、課題解決に向けた実践的指導力やリーダー性の向上に努めてきた。

③ ピア・サポート

受講者同士が、各個の体験に基づき、学習指導、生徒指導、学校運営、分掌経営や現代的諸課題の実践上の悩みや不安、成功・失敗体験事例等について自己開示し、課題や問題点の共感的理解、課題解決に向けた協議や意見交換等を行った。「同じ世代の教職仲間 (Co-fort)」ならではの連帯感を深め、人間関係づくり、ネットワークづくりを行った。



Ⅲ 開発の実際とその成果

1. 開発の方法と組織運営の実際

(1) 山口大学の特色ある取組「ちゃぶ台方式」との関わり

山口大学は、平成17年度以降「ちゃぶ台方式による協働型教職研修計画（ちゃぶ台プログラム）」として、教職志望学生・大学教員・現職教員・教育関係者等との協働により、実践と省察の往還、経験の共有を柱とする教員養成事業の活性化に取り組んできた。

今日、学校をはじめとした教育現場には様々な現代的教育課題が山積し、これらの課題に適切に対応できる教員が求められている。しかし、その養成や資質能力の向上は、大学のみで達成されるものではなく、学生、大学教員、現職教員、教育行政関係者や保護者等多くの者の協働による広くより深い学びの保障が必要となる。その中では、これらの関係者は教える者と教えられる者という一方的関係でなく、互いに研鑽し合う関係であるべきである。上座・下座のない丸い「ちゃぶ台」を囲むように、互いの学びを深め合い共有する場と機会を創り、教育現場で生きて働く「臨機之力」を育てたい。山口大学（教育学部）は、この理念による協働型教職研修事業（ちゃぶ台プログラム）に取り組んでおり、本プログラムはその一つとして構想し展開してきた。



(2) 開発・推進組織づくりの考え方と構成

本プログラムの開発では、山口大学教育学部・山口県教育委員会・山口市教育委員会で構成する既存組織「教育連携推進協議会」のもとに、大学（教員養成・教員研修事業担当チーム）教員、山口県教育委員会（教員研修担当課）担当者で構成する「実行委員会」を組織し、基本方針、企画検討や評価等を行った。

また、各プログラムや個別研修行事の企画運営は「運営委員会」が担当することとし、大学教員と「受講者代表」が山口県教育委員会担当者の協力や助言を得ながら計画、準備、運営や評価等を行った。

「実行委員会」は年間3回、「運営委員会」は各研修プログラムの計画、準備や運営等の作業を中心に各プログラム前に実施した。「運営委員会」には現職教員がおり、校務等と重なる場合は、電話連絡やメール交換等で進めた。

推進組織の構成、担当・役割分担等は次のとおりである。



「実行委員会」

	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	山口県教育庁 教職員課・課長	古西克己	事業検討、講師派遣、各種 調査、資料収集	
2	山口県教育庁教職員課 人事企画班・教育調整監	大塚泰二	事業検討、講師派遣、各種 調査、資料収集	
3	学部＋教職大学院・教授	和泉研二	総括	副学部長
3	学部＋教職大学院・教授	佐々木 司	事業計画、運営	専攻長
4	学部＋教職大学院・教授	霜川正幸	総括（主務者）	実務家教員
5	学部＋教職大学院・教授	静屋 智	事業計画、運営	交流人事教員

「運営委員会」

	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	山口県教育庁教職員課 人事企画班・主査	大下康一郎	事業検討、講師派遣、各種 調査、資料収集	教員研修等担 当
2	やまぐち総合教育支援セ ンター企画室・研究指導主事	中野雅巳	事業検討、講師派遣、各種 調査、資料収集	教員研修セン ター担当
3	学部＋教職大学院・教授	佐々木 司	事業計画・運営	専攻長
4	学部＋教職大学院・教授	霜川正幸	総括（主務者）	実務家教員
5	学部＋教職大学院・教授	静屋 智	事業計画・運営	交流人事教員
6	学部＋大学院・教授	中田 充	事業計画・運営	情報教育コース
7	学部＋教職大学院・講師	藤上真弓	連携プログラム担当	実務家教員
8	受講者代表（現職院生）	茂田幸恵	プログラム計画、運営協力	教職大学院
9	受講者代表（学卒院生）	藤井龍太郎	プログラム計画、運営協力	教職大学院
10	受講者代表（院外教員）	森 泰一	プログラム計画、運営協力	川西中学校

本プログラムの開発や推進の体制は、「ちゃぶ台次世代コーホート」の経験から、「実行委員会」が基本方針、企画検討や評価等を行い、「実行委員会」構成団体担当者に受講者代表を加えた「運営委員会」が各研修プログラムの企画運営等を行う形式を採用した。受講者代表を参画させることにより、受講者自らが主体的にプログラムを開発したり、研修行事の企画、準備、運営や評価等に参画することができプログラムの活性化に大いに効果があった。

「実行委員会」は年間6回、「運営委員会」は各研修プログラムの前後に、計9回実施した。

「運営委員会」に現職教員がいることから、毎回の研修プログラム終了後に行う「交流研修会」の場での意見交換やメール協議等を中心に進めた。

(3) 委員会の開催と大学・教育委員会の連携

「実行委員会」の実施状況

- ① 第1回 平成28年3月14日（月）～「県・市・学部人材育成検討会議」に合わせて実施
 参加者 山口県教育委員会（審議監、教職員課長、義務教育課長）
 山口市教育委員会（学校教育課長、副参事）
 教育学研究科・教育学部（学部・研究科長、副学部長、事務長、教育研究評議

- 員、事業担当者、交流人事教員)
- 内 容・プログラム方針、計画や推進体制等についての提案と協議
・教職大学院カリキュラムや連携にかかる意見・情報交換
- ②第2回 平成28年4月27日(水)～「教育学部・教育学研究科(教職大学院)・やまぐち総合教育支援センター連絡協議会」に合わせて実施
- 参加者 山口県教育委員会(教職員課研修担当、総合教育支援センター研修担当者)
教育学研究科・教育学部(学部・研究科長、副学部長、事務長、教育研究評議員、事業担当者、交流人事教員)
- 内 容・プログラム設計(地域科目開設)に関する提案、計画や進捗等報告
・教職大学院カリキュラムや大学と県教委の連携等にかかる意見・情報交換等
- ③第3回 平成28年5月27日(金)～「県教員養成等検討協議会」に合わせて実施
- 参加者 山口県教育委員会(教育長、教育次長、審議監、関係各課長、事業担当者)
教育学研究科・教育学部(学部・研究科長、副学部長、事務長、事業担当者)
- 内 容・プログラム(地域科目)計画や運営に関する協議、進捗等報告
・教職キャリア形成、各ステージ(期)に求められる資質能力や人材育成に関する協議、山口県の教育課題(現状と課題)に関する協議、意見交換等
- ④第4回 平成28年10月29日(土)～「県スクールリーダー研修講座」後に実施
- 参加者 山口県教育委員会(教職員課班長、教員研修担当者、義務教育課指導主事)
教育学研究科・教育学部(事業担当者、交流人事教員)
- 内 容・第1～4回研修の総括と第5回以降の研修内容、方向等に関する意見・情報交換
・教職大学院カリキュラムへの山口県教育課題の反映にかかる意見・情報交換等
- ⑤第5回 平成29年3月14日(火)～「県・市教委・学部意見交換会」に合わせて実施
- 参加者 山口県教育委員会(教育長、教育次長、審議監、関係各課長、事業担当者)
教育学研究科・教育学部(学部・研究科長、副学部長、事務長、事業担当者)
- 内 容・第5～9回研修の総括と来年度の事業計画に関する協議、意見交換等
・教員の養成・採用・研修の一体化にかかる連携協働に関する協議、意見交換等
- ⑥第6回 平成29年3月22日(水)～「県・市・学部人材育成検討会議」に合わせて実施
- 参加者 山口県教育委員会(審議監、教職員課長、義務教育課長、教員研修担当者)
教育学研究科・教育学部(学部・研究科長、副学部長、事務長、教育研究評議員、事業担当者、交流人事教員)
- 内 容・プログラムの総括(事業評価、成果と課題)と来年度計画に関する協議
・教職大学院カリキュラムや大学・県教委・市教委の連携にかかる意見交換等

「運営委員会」の実施状況

- ①第1回 平成28年5月12日(木)
- 参加者 山口県教育委員会(義務教育課班長、主査、教職員課主幹)
教育学研究科・教育学部(事業担当者、交流人事教員)
- 内 容・第2回実行委を受けた検討、ミドルリーダー養成に関する協議、意見交換
・プログラムの推進体制、研修内容・方法、対象受講者等に関する協議等
- ②第2回 平成28年6月1日(水)
- 参加者 山口県教育委員会(義務教育課主査、指導主事、教職員課管理主事)
教育学研究科・教育学部(事業担当者、教職大学院特任教授)
- 内 容・プログラムの運営に関する協議、山口県教育の現状と課題に関する意見交換等

- ③第3回 平成28年6月21日（火）
 参加者 山口県教育委員会（社会教育文化財課班長、主査、社会教育主事）
 教育学研究科・教育学部（事業担当者、教職大学院特任教授）
 内 容・プログラム（地域協育ネット、学社連携・融合と授業）の検討、意見交換等
- ④第4回 平成28年6月25日（土）～「県スクールリーダー研修講座」後に実施
 参加者 山口県教育委員会（教職員課班長、教員研修担当者、義務教育課指導主事）
 教育学研究科・教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容・プログラム（地域科目）の内容や運営等に関する協議、進捗等報告
 ・ミドルリーダー養成における大学・県・市町教委の連携にかかる意見交換等
- ⑤第5回 平成28年7月8日（金）～「県コミュニティ・スクール推進協議会」後に実施
 参加者 山口県教育委員会（義務教育課班長、主査、社会教育文化財課班長）
 教育学研究科・教育学部（事業担当者、教職大学院特任教授）
 内 容・プログラム内容（いじめ、不登校、学力等と授業科目）の検討、意見交換等
- ⑥第6回 平成28年10月28日（金）
 参加者 山口県教育委員会（教職員課主査、管理主事、義務教育課主査、指導主事）
 教育学研究科・教育学部（事業担当者）
 内 容・プログラムの進捗確認と年度後半の研修プログラムの検討
 ・第4回実行委議事に関する検討、打ち合わせ、準備等
- ⑦第7回 平成28年11月30日（水）
 参加者 山口県教育委員会（教職員課主査、管理主事、義務教育課主査、指導主事）
 教育学研究科・教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容・第8～10回研修会の実施計画や連携強化に関する協議
 ・ミドルリーダーの資質能力に関する調査に関する意見交換等
- ⑧第8回 平成29年1月26日（木）～「県コミュニティ・スクール推進協議会」後に実施
 参加者 山口県教育委員会（教職員課主査、義務教育課班長・主査）
 教育学研究科・教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容・県内巡回型研修の進捗に関する協議、意見交換
 ・市町教委との連携協働に関する意見交換等
- ⑨第9回 平成29年2月13日（月）
 参加者 山口県教育委員会（教職員課主査、管理主事）
 教育学研究科・教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容・次年度計画（受託事業申請）にかかる協議、意見交換
 ・次年度の教員研修事業方針、企画・運営等にかかる意見・情報交換等

「その他の連携」の状況

本プログラムでは、上記の組織的連携に加え、運営スタッフ会議（学部スタッフ、受講者代表で随時開催）での助言や支援、山口県教育委員会発行の「山口県教育関係人材データベース」による指導者バンクや情報の提供、毎回の研修行事への出席と場での指導助言、事業の広報や参加推奨にかかる支援として県教委ウェブサイトへの掲載、市町・学校への通送便やメルリストの優先使用、県・市校長会や研修行事、採用前研修会等での各研修行事の紹介、ミドルリーダー養成研修にかかる情報資料の提供等を行っている。

2. 受講者の構成と募集、広報周知の実際

(1) 受講者の構成

本プログラム受講者は、既に示したように2つの群で構成した。一つは教職大学院生（「山口県教育の現状と課題」履修者）群であり、一つは自ら受講を希望した現職教員群である。

教職大学院生群は、県内学校や地域が抱える教育的諸課題、県教育が有する先進的・革新的取組を取り扱う「山口県教育の現状と課題」履修者である。この科目は、学部卒院生が所属する「教育実践開発コース」では「必修科目」、現職教員院生が所属する「学校経営コース」では「選択科目」とし、通年開設の4単位科目として開設した。「授業オリエンテーション」、「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course」、教科指導や授業づくりを主眼とし附属学校を会場に行う「授業づくりの会」、「省察・総括」に計30コマ（60時間）を充てた。

一方の自ら受講を希望した現職教員群について報告する。本プログラムはあくまで自主的、自発的参加を原則とするものである。「参加できる時に、参加できる範囲や形で、自由に関わる」ことが前提であり、プログラム自体を広め、興味関心や意欲を持たせ、「自腹を切っても山口に行く」という行動につなげることが必要となる。

とはいえ、本プログラムが、ミドルリーダーとして成長するための「必要課題」の学修や、県内学校等が有する現代的教育諸課題の開発、解決を目指す内容で編制し、系統的・計画的な機能開発を意図したものである限りは、できるだけ多くの受講者があることを期待する。

これらのことから、本プログラムの開発・推進においては、山口県教育委員会とや市町教育委員会との連携・協働に頼る部分が極めて大きかった。以下の項でふれていく。

(2) プログラムの募集、広報周知（「資料編」に関係資料を掲載）

本プログラムの広報周知については、特に「必修科目（学校経営コースは選択）」とされた教職大学院生に対する説明に配意した。「授業オリエンテーション」の中で、プログラム開発の意義や目的を明確に示すとともに、現職教員の置かれた状況や教職キャリア形成や職能発達にかかる課題等をふまえ、意欲的な研修意欲・態度や教育諸課題への興味関心を誘発する働きかけとなるよう配意した。

また、「ちゃぶ台プログラム」の特長を前面に出すことに努め、受講生や大学教員、教育機関担当者や地域の教育関係者等が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、様々な教職実践の開示・共有と省察により、学校教育や教育事象の具体的な理解と、課題解決能力やコミュニケーション能力等の実践的能力を向上させるスタイルであること、同年代の教職仲間の存在、連帯性や関係性を重視するべきことを指導した。

山口県教育委員会（教職員課）には、プログラム構想段階から、高等学校や市町教育委員会等に対し本プログラムに関わる意義や構えを示し、研修プログラムの広報周知や推奨、各校種の校長会等での広報や協力依頼や山口県教育委員会（教職員課）ホームページへの掲載等について多大な協力や支援を得た。

■ 講師の養成時間の取組	■ 教員免許状に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ① 教育実践開発コース（2013年度4月1日実施） ② 「教育実践開発コース」について（2013年3月29日実施） ③ 「教育実践開発コース」について（2013年3月29日実施） ④ 学修と自己研鑽の促進に関する研修（2013年度4月1日実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 教員免許更新制について（2013年3月29日実施） ② 教育実践開発コース受講者について（2014年4月1日実施） ③ 研修実施の学校に所属する教員について（2014年6月3日実施）
■ 教員の教育能力の向上に向けた取組	■ 学校運営の改善に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> ① 「教職大学院生養成方針」について（2013年度4月13日実施） ② 「教育実践開発コース」について（2013年度4月13日実施） ③ 「教育実践開発コース」について（2013年度4月13日実施） ④ 山口県立学校教職員研修会（2013年度）について（2013年12月11日実施） ⑤ 山口県立学校教職員研修会（2014年度）について（2014年12月11日実施） ⑥ 山口県立学校教職員研修会（2015年度）について（2015年12月11日実施） ⑦ 山口県立学校教職員研修会（2016年度）について（2016年12月11日実施） ⑧ 山口県立学校教職員研修会（2017年度）について（2017年12月11日実施） ⑨ 山口県立学校教職員研修会（2018年度）について（2018年12月11日実施） ⑩ 山口県立学校教職員研修会（2019年度）について（2019年12月11日実施） ⑪ 山口県立学校教職員研修会（2020年度）について（2020年12月11日実施） ⑫ 山口県立学校教職員研修会（2021年度）について（2021年12月11日実施） ⑬ 山口県立学校教職員研修会（2022年度）について（2022年12月11日実施） ⑭ 山口県立学校教職員研修会（2023年度）について（2023年12月11日実施） ⑮ 山口県立学校教職員研修会（2024年度）について（2024年12月11日実施） ⑯ 山口県立学校教職員研修会（2025年度）について（2025年12月11日実施） ⑰ 山口県立学校教職員研修会（2026年度）について（2026年12月11日実施） ⑱ 山口県立学校教職員研修会（2027年度）について（2027年12月11日実施） ⑲ 山口県立学校教職員研修会（2028年度）について（2028年12月11日実施） ⑳ 山口県立学校教職員研修会（2029年度）について（2029年12月11日実施） ㉑ 山口県立学校教職員研修会（2030年度）について（2030年12月11日実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 教職大学院生養成方針について（2013年度4月13日実施） ② 教育実践開発コースについて（2013年度4月13日実施） ③ 教育実践開発コースについて（2013年度4月13日実施） ④ 山口県立学校教職員研修会（2013年度）について（2013年12月11日実施） ⑤ 山口県立学校教職員研修会（2014年度）について（2014年12月11日実施） ⑥ 山口県立学校教職員研修会（2015年度）について（2015年12月11日実施） ⑦ 山口県立学校教職員研修会（2016年度）について（2016年12月11日実施） ⑧ 山口県立学校教職員研修会（2017年度）について（2017年12月11日実施） ⑨ 山口県立学校教職員研修会（2018年度）について（2018年12月11日実施） ⑩ 山口県立学校教職員研修会（2019年度）について（2019年12月11日実施） ⑪ 山口県立学校教職員研修会（2020年度）について（2020年12月11日実施） ⑫ 山口県立学校教職員研修会（2021年度）について（2021年12月11日実施） ⑬ 山口県立学校教職員研修会（2022年度）について（2022年12月11日実施） ⑭ 山口県立学校教職員研修会（2023年度）について（2023年12月11日実施） ⑮ 山口県立学校教職員研修会（2024年度）について（2024年12月11日実施） ⑯ 山口県立学校教職員研修会（2025年度）について（2025年12月11日実施） ⑰ 山口県立学校教職員研修会（2026年度）について（2026年12月11日実施） ⑱ 山口県立学校教職員研修会（2027年度）について（2027年12月11日実施） ⑲ 山口県立学校教職員研修会（2028年度）について（2028年12月11日実施） ⑳ 山口県立学校教職員研修会（2029年度）について（2029年12月11日実施） ㉑ 山口県立学校教職員研修会（2030年度）について（2030年12月11日実施）
■ 業務内容	■ お問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校経営開発推進課長、教職員の研修及び人事制度に関する業務 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〒753-8543 山口県山口市海町1-9-1（山口南庁14階） ・ 電話：083-933-4540

大学は、教育学部ホームページでの広報周知を行うとともに、「ちゃぶ台次世代コーホート」受講生が移行する可能性があることから、同プログラムを受講する現職教員会員に対し情報提供を行い、プログラムへの参加を呼びかけた。

(3) 受講者の現況

本プログラムには、教職大学院生受講者15人、公募による受講者19人の計34人が参加した。

教職大学院生受講者も2区分され、「学校経営コース」に在籍する現職教員受講者は校種別に小3人、中3人、高校1人の計7人、教員経験は11年目～26年目である。「教育実践開発コース」の院生は8人で、現場経験等はない。終了後の任用希望校種は、小2人、中4人、高校2人となっている。

一方、計画当初20人を予定していた公募による受講者は、山口・広島県から19人が参加した。校種別は小9人、中2人、高校が8人の計19人、教員経験は3年目～16年目であった。昨年度までの「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course」からの継続が10人で、小4人、中2人、高校4人、新たに勤務校から受講推奨された者4人、友人の紹介3人、広報を見ての希望者2人の計9人の新規参加があった。

新規参加の理由として、今後、中堅教員の域に達することから研修・生徒指導や進路指導等に関する必要課題や全国的動向等の研修を希望する、現場実践の中で指導の行き詰まりや悩みを抱えている、現場の多忙化や勤務過重による研修機会の乏しさから物足りなさを感じている等を挙げる者が多かった。現場実践における困難、不安や孤独の状況に加えて、若年教員の研修意欲や研修ニーズはかなり高く、学び直しや継続的な機能開発に対する期待、プログラムの適宜性と拡充の必要性が再確認できた。

公募による受講者の校種別参加者数については、小学校と高等学校が多く中学校が少ない。中学校においても、学校での広報周知、管理職からの参加



28年度「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course」会員登録者一覧表

番号	県	校種	所属	職名	年目
1	山口	中	山口市立川西中学校	教諭	16
2	広島	小	神石高原町立三和小学校	教諭	10
3	山口	高校	山口県立防府商工高等学校	教諭	9
4	山口	高校	山口県立防府商工高等学校	教諭	8
5	広島	高校	広島県立大門高等学校	教諭	7
6	山口	高校	山口県立厚狭高等学校	教諭	6
7	山口	中	山口市立平川中学校	教諭	6
8	山口	高校	山口県立熊毛南高等学校	教諭	6
9	山口	小	山口大学教育学部附属光小学校	教諭	6
10	山口	小	山口市立良城小学校	教諭	5
11	山口	高校	山口県立小野田高等学校	教諭	5
12	山口	小	山口大学教育学部附属光小学校	教諭	5
13	山口	小	周南市立桜木小学校	教諭	4
14	山口	高校	山口県立下関西高等学校	教諭	4
15	山口	小	宇部市立船木小学校	教諭	4
16	山口	小	下関市立豊浦小学校	教諭	3
17	広島	高校	広島県立日影館高等学校	教諭	3
18	山口	小	下関市立勝山小学校	教諭	3
19	山口	小	萩市立椿東小学校	教諭	3
20	山口	高校	山口県立周防大島高等学校	教諭	院
21	山口	小	萩市立ふくえ小・中学校	教諭	院
22	山口	小	岩国市立川下小学校	教諭	院
23	山口	中	光市立大和中学校	教諭	院
24	山口	中	柳井市立柳井中学校	教諭	院
25	山口	小	下関市立名池小学校	教諭	院
26	山口	中	山口市立宮野中学校	教諭	院
27	山口	小	山口大学教育学研究科	院生	院
28	山口	高校	山口大学教育学研究科	院生	院
29	山口	小	山口大学教育学研究科	院生	院
30	山口	中	山口大学教育学研究科	院生	院
31	山口	中	山口大学教育学研究科	院生	院
32	山口	中	山口大学教育学研究科	院生	院
33	山口	中	山口大学教育学研究科	院生	院
34	山口	高校	山口大学教育学研究科	院生	院

推奨は行われ、教育委員会や大学ホームページを閲覧する機会は等しく与えられている。中学校籍受講者や参加できなかった中学校教員からは、中学校の現状から厳しいという声がある。週休日（土）開講による学校行事、部活動や土曜日授業等との重なり、県内全小中学校が指定されたコミュニティ・スクールが主催する地域・学校行事の増加等の課題が表出し、今後、各市町・学校域で検討される学校や教職員の業務改善等の動きと合わせ、行政研修との相乗、共存を目指す本プログラムとして検討していく。

小学校籍参加者からは、学校現場が有する教育課題の多様化・高度化・複雑化への対応が年々厳しくなり、学び直しや他教職員との協働的・連帯的なネットワーク形成が重要であること、教科指導や学級経営が主となりがちなか業務の中で、他領域・活動に関する指導や支援のあり方を研修する必要を感じていること等が参加の理由として挙げられている。

高等学校籍参加者からは、他校種に比べて高等学校の授業改善や学校改革はかなり遅れていること、校内研修を含め研修機会が少ないこと、各担当教科に関する高度な専門性を求める中で他教科・領域の先進実践から学ぶことや、同僚性・協働性溢れる教職員組織を形成する必要を感じていること等が指摘されている。各校種における学校教育・運営上の課題、職能開発の重要性の観点から、本プログラムのような校種や経験を乗り越えた研修プログラムの開発、ピア・サポートの充実を進める必要を実感できた。

3. プログラムの実際（研修内容、講師や研修スタイルの具体）

以下、本プログラムにおいて展開した研修行事の具体と成果、課題等を報告するが、各地の大学や教育委員会での実践や利活用に資するため、各研修行事等において作成・使用した資料等の一部については、後段「資料編」で報告・紹介することとし、本項では概要、ポイントを示す。

ミドルリーダーには、組織運営や学校経営の現状を正しく見極め、見えにくい課題をあぶり出し、その解決に向かうこと、組織内の役割分担、連絡調整や同僚に対する指導助言や支援ができること、そして、豊かな人間関係を築き、組織を前向きに元気づけること等の能力が必要である。

そこで、本プログラムでは、受講者のミドルリーダー、ヤングリーダーとしての課題解決力、組織的協働力、人間性等の育成を図るとともに、地域（山口県）の課題解決に資するため山口県の教育諸課題を具体的に学ぶため、個別研修プログラムを実施する。

(1) 研修行事「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course」研修会

第1回 平成28年6月25日（土）13:00～17:30

場 所 山口大学教育学部「21番教室」

目 的・山口県の教育課題①「山口県教育の現状と課題、教育施策」に関する理解

- ・学校教育の現状や現代的課題をふまえたミドルリーダーの資質能力の解明
- ・課題解決に向けた教育実践のあり方、研修集団づくりとピア・サポート活動

内 容・指導講話「山口県教育の現状と課題」

講師：山口県教育庁教育政策課 主幹 縄田浩之さん

- ・グループ演習「ミドルリーダー像を考える」

講師：山口大学教育学研究科（教職実践高度化専攻）教員

- ・指導講話「時代が求めるミドルリーダー ～候補生たちへの期待～」

講師：山口市立湯田中学校 校長 藤本孝治さん

- ・研究の仲間づくりとピア・サポート「研究を進めるにあたって」

参加者 受講生29人（うち教職大学院生13人）、講師・スタッフ等16人 計45人



第2回 平成28年8月27日（土）13:00～17:30

場 所 下関市教育センター（巡回型公開講座）

- 目 的
- ・山口県の教育課題②「学力向上」に関する現状と課題の実践的理解
 - ・新学習指導要領や国動向等の理解とミドルリーダーのあり方に関する研修
 - ・SWOT分析等とおとしたマネジメント手法の研修、ピア・サポート活動

内 容

- ・講義演習「これからの時代の学力と教員の力量形成」

講師：京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井英真さん

- ・講義演習「教育維新 学びの郷 福井の教育に学ぶ」

講師：福井県教育研究所調査研究部

主任 三谷和範さん、研究員 青木晶子さん

- ・グループ演習、ピア・サポート「自分の勤務校を振り返る」

講師：山口大学教育学研究科（教職実践高度化専攻）教員



参加者 受講生32人（うち教職大学院生13人、下関市内教員7人）、講師・スタッフ等13人 計45人

第3回 平成28年10月1日（土）9:00～12:30

場 所 山口大学教育学部「21番教室」

- 目 的
- ・山口県の教育課題③「道德教育」に関する現状と課題の実践的理解
 - ・道德教育をめぐる全国動向の理解とミドルリーダーのあり方に関する研修
 - ・SWOT分析、STCシートマネジメント手法の研修、ピア・サポート活動

内 容

- ・講義演習「道德教育をめぐる動向と今後の方向」

講師：香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

准教授 植田和也さん

- ・グループ演習、ピア・サポート「勤務校が抱える教育課題と解決への取組」

講師：山口大学教育学研究科（教職実践高度化専攻）教員



参加者 受講生27人（うち教職大学院生12人）、講師・スタッフ等12人 計39人

第4回 平成28年10月1日（土）13:30～17:30

場 所 山口大学教育学部「21番教室」

- 目 的
- ・山口県の教育課題④「これからの学校づくり（チーム学校）」に関する現状と課題の実践的理解

- ・チーム学校、教育と福祉の連携、学外教育関係機関や団体等の実践的理解

- ・若年教員や学生に対する指導助言体験とおとした指導力の養成

内 容

- ・講演「チーム学校として事案解決に向かうために」

講師：スクールソーシャルワーカー・社会福祉相談所長 上田翔湖さん

- ・研修運営、指導助言体験「あなたならどうする？ちゃぶ台ケース会議」

講師：山口大学教育学部・教育学研究科（教職実践高度化専攻）教員

- ・体験研修対象者：「ちゃぶ台次世代コーホート」参加者（学生、若手教員）

参加者 受講生27人（うち教職大学院生12人）、講師・スタッフ等12人 計39人



第5回 平成28年11月5日（土）13:00～17:30

場 所 周南市徳山保健センター（巡回型公開講座）

- 目 的
- ・山口県の教育課題⑤「小中連携、中高接続、小中一貫教育」に関する現状と課題の実践的理解



- ・校種間接続をめぐる全国動向、先進実践の理解とリーダーのあり方に関する研修
- ・各学校教育課題の共有と解決に向けた協議をとおしたミドルリーダー像の構想



- 内 容
- ・実践発表「中高連携を生かし、地域に根ざして、人材を育てる」
講師：岐阜県立揖斐高校 校長 鈴木英司さん、教務主任 大平隆司さん
 - ・講義演習「小中一貫教育校の構想と開校のなかで見えてきたこと」
講師：島根大学教育学部教師教育研究センター 特任教授 木下公明さん
 - ・グループ演習、ピア・サポート「勤務校が抱える教育課題と解決に向けて」
講師：山口大学教育学研究科（教職実践高度化専攻）教員
- 参加者 受講生22人、講師・スタッフ等9人 計31人

第6回 平成28年11月26日（土）9：00～12：30

場 所 山口大学教育学部「21番教室」（巡回型公開講座）

目 的 ・山口県の教育課題⑥「キャリア教育、キーコンピテンシー」に関する現状と課題の実践的理解

- ・キャリア教育に関する動向、国施策や開発企業体の構想等に関する実践的理解とミドルリーダーのあり方に関する研修
- ・各学校教育課題の解決に向けた研究協議と取り組み構想



内 容 ・実践提案「キャリア教育に対する開発企業からのアプローチ」

- 講師：株式会社エナジード 代表取締役 氏家光謙さん
- ・講義演習「キャリア教育の現状と課題」
講師：奈良教育大学大学院教育学研究科 教職開発専攻 准教授 河崎智恵さん
- ・グループ演習、ピア・サポート「勤務校が抱える教育課題と解決に向けて」



講師：山口大学教育学研究科（教職実践高度化専攻）教員

参加者 受講生26人、講師・スタッフ等12人 計38人

第7回 平成28年11月26日（土）13：00～17：30

場 所 山口大学教育学部「21番教室」

目 的 ・山口県の教育課題⑦「ICT活用、教育の情報化・高度化」に関する現状と課題の実践的理解

- ・ICT、情報リテラシーに関する動向理解と実体験
- ・若年教員や学生に対する指導助言体験をとおした指導力の養成

内 容 ・講義演習「教育の情報化に対応していくために～山江村教育の情報化戦略～」

- 講師：熊本県山江村 教育長 藤本誠一さん
- ・プレゼン、デモ「ICT、キャリア教育、プログラミング教育に関するブース展示」
講師（ブース展開企業）：パナソニックシステムネットワークス株式会社、山口視聴覚株式会社、熊本県山江村立山田小学校、株式会社エナジード、株式会社アワセルブズ&ファブラボ山口、やまぐち総合教育支援センター



参加者 受講生26人、講師・スタッフ等12人 計38人

その他 ・山口県教育委員会による「山口県の教師塾（大学3年、院1年）」受講者36人も参加した。

第8回 平成29年1月7日（土）13：00～17：30

場 所 岩国市福祉会館（巡回型公開講座）

目 的 ・山口県の教育課題⑧「リスクマネジメント、ストレスマネジメント」に関する現状と課題の実践的理解

- ・学校教育に関する危機管理についての実践的理解とスキルトレーニング
- ・メンタルヘルスにかかるミドルリーダーのあり方、経営実践に関する研修
- ・各学校教育課題の解決に向けた研究協議と取り組み構想

内 容 ・講義演習「リスクマネジメントの基礎～ミドルリーダーとしての視点～」

講師：鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 阪根健二さん

・講演「心元気の職場をつくる～メンタルヘルスとストレスマネジメント～」

講師：こころ元気研究所・（株）エンパワーコミュニケーション 代表 鎌田 敏さん

・グループ演習、ピア・サポート「勤務校の来年度を構想する」

講師：山口大学教育学研究科（教職実践高度化専攻）教員

参加者 受講生36人、講師・スタッフ等5人 計41人



第9回 平成29年2月12日（日）13：00～17：30

場 所 山口大学教育学部各教室（教育実践総合センター連携事業・学外公開研修会）

目 的 ・山口県の教育課題⑨「学習指導、授業づくり」に関する実践的理解

- ・学習指導、授業づくりに関する模擬授業、研究発表等による研修
- ・若年教員や学生に対する発表や指導助言体験をとおした指導力の養成

内 容 ・模擬授業、研究発表「私の授業、私の実践研究」

広島県立大門高等学校 黒川真実さん

広島県神石高原町立三和小学校 飯干 新さん

福岡県福岡市立当仁小学校 上原尚子さん

周防大島町立安下庄小学校 松岡 巧さん

下関市立垢田小学校 伊秩貴志さん

山口市立川西中学校 森 泰一さん

山口市立大殿中学校 津守陽子さん

山口市立小郡中学校 大持友之さん

柳井市立柳井中学校 中原恵子さん

防府市立国府中学校 末富令子さん

宇部市立西岐波中学校 大迫共代さん

山口県立下関南総合支援学校 河野亜希子さん

山口大学教育学部附属光小学校 國重裕美さん

参加者 受講生28人、講師・スタッフ等22人 計50人



第10回 平成29年3月18日（土）13：00～17：30

場 所 山口大学教育学部「21番教室」「ちゃぶ台ルーム」

目 的 ・山口県の教育課題⑩「知的好奇心、人権尊重」に関する課題の実践的理解

- ・研修プログラムの振り返りとともに「学び続ける教師」としての意識を高める研修

- ・若年教員の教職に関する不安や悩みに対する指導助言体験をとおした指導力の養成

内 容 ・グループ演習、ピア・サポート「1年間の研修を振り返って」

講師：山口大学教育学研究科（教職実践高度化専攻）教員

・講義演習「知ることはきっと面白い～考える力を刺激する、世の中の不思議～」

講師：Howcang（教育コンテンツ開発）代表（Webディレクター）藤本正之さん



- ・トーク&コンサート：「セルフプロデュース3か条～優しさの中の強さ～」
講師：歌手・作曲家 ちひろさん
- 参加者 受講生30人、講師・スタッフ等14人
計44人



(2)ピア・サポート

本プログラムでは、受講者同士が、各個の教職体験や日々の教職実践等に基づき、学習指導、生徒指導、学校運営、分掌経営や現代的諸課題等の教育実践上の悩みや不安、成功・失敗体験事例等について自己開示し、課題や問題点の共感的理解、課題解決に向けた協議や意見交換等を図り、「同じ世代の教職仲間（コーホート）」としての連帯感を深め、人間関係やネットワークづくりを行っている。この時間は、ミドルリーダー、ヤングリーダーをめざすという共通の「夢」を語り「志」につなぐ貴重な研修機会となっている。

こうした同年代教員同士の「横軸」の関わりや、いつでも傍に居てくれると感じる「連帯感や居場所意識、仲間感覚」は、現在の若手教員の教職キャリア形成に不可欠と考えられ、ぜひ全国各地での実践を期待するものである。



(3)その他

本プログラムでは、研修行事に前後して開催する形で「事業運営協議会」も実施し、研修講師と運営スタッフ（県・市町教育委員会担当者、大学教員等）が、教職大学院カリキュラムや「地域科目」の構想、ミドルリーダー研修の内容・方法や指導者、学校現場が求めるミドルリーダーの資質能力、本プログラムに対する評価等について研究協議を行ってきた。

また、市町教育委員会とは、ミドルリーダー養成に資する「県内巡回型公開講座」や地域に根ざした教職大学院や「地域科目」のあり方等について、研修プログラムの共催をとおして意見交換を行ってきた。

大学と県教育委員会との連携・協働の必要性が説かれ、実際に「交流人事教員」等をチャンネルとした協議や情報交換等は盛んであるが、市町教育委員会との組織的なつながりはまだまだ薄いと言わざるを得ない。大学教員個人レベルで各種会議・委員会や指導・講演等業務を受ける中でのテーマ連携が主であり、組織連携につながってはいない。本プログラムでは、県内巡回型の公開講座スタイルの実施をとおして、会場市教育委員会（学校教育課長や指導主事等）と深みのある協議や意見交換を行うことができた。「研修行事は県の中心にあり知の拠点たる大学で実施するもの」という既成概念を打破し、大学自らが地域に出かける中で、大学や教職大学院の地域貢献と地域教職員研修の活性化を連動することは可能であると判断できる。ぜひ大学自身が変わることが必要であろう。

さらに、本プログラムでは、プログラムの状況（進捗、成果と課題等）にかかる積極的な情報発信に努め、「国立大学教育実践研究関連センター協議会」、「全国教育系大学交流人事教員研究交流集会」や関係学会等での実践発表、「日本教育大学協会研究集会」等での情報提供、他大学・教育委員会の視察対応をとおしたプログラムの普及拡大も図ってきた。他大学や教育委員会からの研修視察や聞き取り訪問も多数を数え、各大学や教育委員会としての危機感や期待感も実感した。



4. プログラム評価の実際、受講者の声に見る成果と課題

(1) プログラム評価の方法等

本プログラムの評価は、各研修行事に合わせて受講者が行う「自己評価」、プログラム推進途中や終了後に行う「本事業（プログラム）総合評価」により実施した。

受講者による「自己評価」については、「自己評価シート」をもとに、受講者が各自の研修活動と省察を記録集積し、今後の時代に求められる教員として求められる資質能力（到達目標）の到達度を自己評価するとともに、研修行事の中で実施される指導担当教員との研究進捗報告、研究協議、意見交換や受指導等をとおして、その形成に取り組んできた。「自己評価シート」については、教職大学院の学部卒院生も受講していることから、現職教員用と学部卒院生用を作成している。

加えて、運営委員会（スタッフ）が年度途中や終了後に総合的評価を行い、各個の到達や成長に関する助言等により職能発達支援を行った。

各個別プログラム担当者においては、事業全体と個別プログラムの関わり、効果、課題等について不断の評価に努めるとともに、受講者の勤務校や教育委員会等との連携を密にし、プログラムの工夫改善に努めた。

(2) プログラムに関する受講者の到達・成長度実感

第9回研修会（2月）終了後、受講生に対して、今後の時代に求められる教員として求められる資質能力について比較評価を行った。資質能力を30項目で示し、10段階評価法にて、到達・成長度を問う形で行った。本プログラムの各受講者レベルでの有用性を検討するためのもので、全受講者34人中、回答のあった29人の評価平均値を図1に示す。各項目の上グラフ線が「受講前」、下グラフ線が「受講後」である。

本プログラムの終了にあたり、最も到達度の高い項目が「教育への情熱」、平均値7超の高項目が「新しい時代に対応する積極的な姿勢」「様々な人々とのコミュニケーション能力」「他者の意見を受け入れる能力」「職場での人間関係を上手く調整する能力」「教員自身の心身の健康管理」となった。このことは、本プログラムに取り入れているワーク・演習型研修の影響もあるが、それ以上に本年度研修計画の中で、教育課題に関する動向や文部科学省、県行政施策等を意識的に盛り込んでいること、研修内容としてリスク・ストレスマネジメントや職場環境づくり等を入れたこと等が考えられ、多様な現代的教育課題に関する研修が即時的な力量形成に有用であることも示している。地域教育課題に関する積極的な教育啓発、研修の活性化がミドルリーダーや若手教員の資質向上に必要と考えられた。

逆に平均値6未満の項目が「教育課程の開発能力」「教育課程外（校外活動、部活動等）

での指導能力」「学年・学校経営の能力」「カウンセリングの技能」「進路指導、キャリア教育の能力」「学級経営の能力」「教員自身の体験とそれに基づく指導力」となった。この点では、来年度、直ちに研修内容に組み込むとともに、ピア・サポートでの学びや

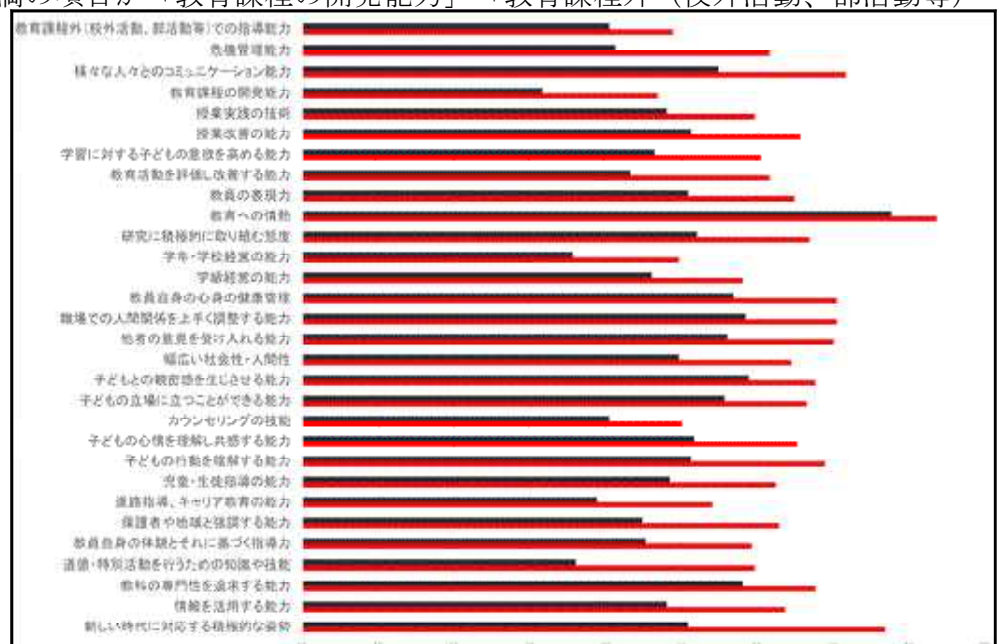


図1「教員として求められる資質能力の到達度、成長度」

同年代交流の不足が影響したと考えられ、次年度以降の編制において対応したい。

成長度については、「新しい時代に対応する積極的な姿勢」が最も高く、「道徳・特別活動を行うための知識や技能」「危機管理能力」「保護者や地域と強調する能力」「教育活動を評価し改善する能力」「子どもの行動を理解する能力」が続いた。このことについても、上述の研修内容や方法等の効果が大きいと考えられた。

また、本プログラムが、教員として求められる資質能力のどの項目の育成に有用かの評価を問うた結果が図2である。

最も高い評価は「新しい時代に対応する積極的な姿勢」となり、「教育への情熱」、「様々な人々とのコミュニケーション能力」、「幅広い社会性、人間性」が続く結果となった。

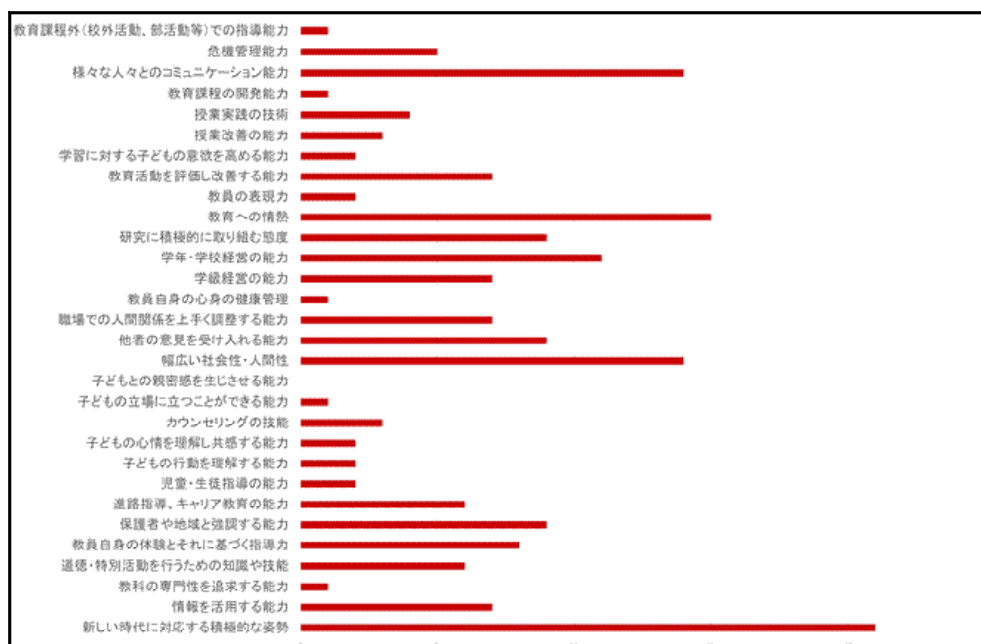


図2「プログラムの有用性と教員として求められる資質能力」

本プログラムは、教職大学院が主体となり、地域のミドルリーダー養成、中堅教員としての資質向上を図るためのものである。ミドルリーダーや中堅教員には、教職員集団を牽引できるだけの情熱、先見性、指導力、人間関係力、表現力や同僚を温かく包み込む人間性が求められる。その面では、本プログラムの有用性について一定の評価は得ているが、特に、若手教員の「あこがれの存在」としてあるためには、カリキュラム開発、学級・学年・教科・分掌経営に資する知見、技能や経験等が必要であり、今後の研修内容や方法の工夫改善が必要と考えている。

(3) プログラムに関する総括的コメントから

プログラム終了後（全研修行事終了後）には、プログラム全体にわたる総括レポートを課している。受講者のレポートの一部を紹介する。

参加しやすい研修形態をとりながら内容の濃い研修が展開されるプログラムの運営方法、教育課題の取り上げ方やそれにふさわしい講師の選定など、研修の企画者に求められる資質能力を獲得したいと考え受講した。また、学校現場に取り入れられる研修はないかという視点をもって臨んだ。

このプログラムでは、学校現場に閉じこもっていたり、講演を受け身で聴いたりするだけでは知り合うことも話すこともままならない講師や参加者と、協議や演習を通して気軽に会話ができる関係を築くことができる大変魅力的な研修方式であると感じている。

講義では、最新の教育課題を取り扱うという内容の良さもさることながら、講師のプレゼンテーションや資料の提示の仕方も勉強になる。講師陣は全国で講演を行っている経験豊かなプロであり、聴く人に伝えたいことが伝わるような話し方、資料の提示、参加者の能動的参加プログラムを用意しており、毎回学びの多さに驚かされる。

講義の一つに、受講生が講師となり、与えられた時間枠を自分でデザインして研究実践の発表等を行うプログラムが用意されていた。私自身の大学院での改善プランの一つに、市内の先

生方に研修の講師になってもらうという企画がある。受講者から講師へと立場を変えることで意識改革が図られ、人材育成が進むのではないかと考えたからである。そこで、まず自分がこの機会を生かし、講師のやりがいや苦労を経験することが大切であると思い、講師に名乗りをあげた。様々な業務と並行しながら準備を進めることは大変ではあったが、実習校の協力や講義の学びを生かして発表を行うことができた。事前に教授から、参加者は話を聴くだけでは満足しないので、能動的な活動を取り入れながら研修を受けた後にすぐ実践してみようと思わせる学びが必要であることや、受講者のニーズに沿ったものを提供する視点をもつことなどをアドバイスしていただいた。それらを取り入れたつもりではあったが、受講者の温かさに救われた部分が大きかったので、今回の発表に改善を加え、学びのある研修の開発に向けて技術を磨いていきたい。（現職教員院生）

現職教員、教育関係者、教職志望学生が同じ空間で、現代の学校が直面している教育課題、山口県教育において克服が求められている諸課題について学び理解を深める本プログラムでは、毎回すばらしい講師陣のお話をうかがったり、ワークショップにより意見を交わしたりしながら研修を重ねた。Chance、Challenge、Changeの3つのCの精神で、学校経営コースの教職大学院生が講師として発表を行ったり、実践コースの院生が受付や講師紹介、謝辞を述べる役割を担ったりして、院生自身も運営に関わった。移動会場方式で山口大学から飛び出して学ぶ機会があったおかげで、いつもとは違うメンバー（他市の教員）との出会いや共に学ぶ機会をいただくこともできた。また、他県からの受講者の熱意に毎回大いに刺激を受けながら学習を進めることができた。

授業のテーマは、学校経営、学力向上、道德教育、SSWIによる「チーム学校」の現状報告、キャリア教育、ICTの活用の実際、生徒指導、等と幅が広く、しかもそれぞれの分野の最新の情報をうかがうことができた。

一年間の学びを終えた今、一番すごいと思うことは、このような質の高いプログラムを企画、遂行する大学スタッフの力量である。講師を発掘し、交渉し、さまざまな立場の受講者全員に連絡を徹底し、当日の運営を進め、終了後は便りを発行して学びを価値づける。学校現場においてもこのような力が必要とされるのだろうが、なかなかこのように進めることはできない。メタ認知により感動しながら毎回学ばせていただいた。真にアクティブな学びの場であったと思い、受講できたことに感謝をしている。先生方、本当にありがとうございました。（現職教員院生）

受講前は、山口県教育がどのような課題を抱えているのか、現場で働いている先生方がどのような課題意識を感じているのかなど現状を知りたいと思った。また、若手の先生方と交流する機会を得ることで、自分が現場に出た際に横のつながりを持てるようにしたいと思った。

授業は、外部講師の方による講演、受講生同士によるワークショップ、学部生とのディスカッションなどにより進められている。また、後期は様々先生方がそれぞれのブースに分かれ発表する形式も取られていた。内容は、リスクマネジメント、メンタルヘルス、学級経営、道德の教科化、ICT活用等今日的な課題を取り上げたものが多く勉強になるお話を聞くことができている。また、ワークショップでは現職の先生方と意見交換をすることができるので、現場の生の声を通して学校の実態を知ることでもできている。

授業を通して一番感じていることは、学校が一つの集団としてまとまることが非常に大切だということである。授業改善をしていくのも、リスクマネジメントをするにも、教員のメンタルヘルスに関しても、すべてに共通することは教員同士の横のつながりが太ければ太いほど良いということであった。さまざまな講演をお聞きする中で、真の強い学校であればあるほど、少しのことでは揺らぐことはなく、よりよい教育を子供に届けることも可能であるのではないかと感じている。ただ、実際の現場の声としては、必ずしも全教職員が協力的であるとは限らないということも伺ったので、それに関しては、これから考えていかなければならないと思

う。また、自分たちが多様な先生方のつなぎ役になっていきたいと思った。ありがとうございました。（学部卒院生）

(4) 県内巡回型公開講座としての評価

本プログラムでは計4回を巡回型公開講座の形で実施し大変好評を得た。4地域（市町）からの参加者には受講者同様に「自己評価シート」による評価を実施するとともに、終了後はメールにより意見収集等をしている。参加者と市教育委員会担当者コメントを一部紹介する。

わざわざ岩国市まで来ていただき本当にありがとうございました。こういった研修はぜひ参加したいと思うし、自分自身を磨かないといけないと思いますが、いつも山口市など中心部で開催されることが多くて難しくなります。移動の負担を考えると本当に参加しやすいです。巡回される分、講座に使える時間が制限されるのでやむを得ないのですが、学びの場においては、学んだことを振り返る時間や参加者同士の協議の時間が、メインの講義や演習の時間と同じウエイトで大切なのではないかと思います。自分自身や他人と話すということが大切だと思いました。本当にありがとうございました。また来て下さい。（受講者）

開催される自治体の現状や教育課題をふまえての研修会だったので刺激的でした。本市の児童生徒数も減少の一途をたどっています。当然、将来的な学校統廃合の話も遑上にありますが、現在の子どもたちをどうするかという点では、少ないながらも小中連携教育や小中一貫教育、コミュニティ・スクールの取組を通じた教育向上をめざすしかないというのも事実です。そこにピントを合わせて構想された研修企画に驚きました。今回の講師は市単独の研修会にも招聘したいと思います。貴重な講師情報もいただきありがとうございました。来年度も巡回型でお願いします。（市教育委員会）

先日の研修会は大変お世話になりました。もう少し市内の先生方に広報周知を徹底すれば良かったと後悔しています。あれほどビッグネームの講義演習、やる気みなぎり意識の高い30人の受講生との協議や意見交換、大学の先生方の指導助言等は、日頃の研修会ではとてもできません。予算もないというのが実際のところなのですが、本当に教職大学院ができて、こんなにも良いことがあり、地域の教職員研修も活性化できるということを実感した日でした。指導主事も少なかったのが、後日よく話をしておきました。みな残念がっていました。ぜひ来年度もご一緒させて下さい。楽しみにしております。お疲れ様でした。今後ともよろしく願いいたします。（市教育委員会）

図3「地域教職員向け広報チラシ（岩国市会場の例）」

IV 連携による研修プログラム開発の要点等

1. プログラム開発にあたって

本プログラムでは、山口県教育委員会との連携協力のもと、教職大学院（院生と教員）が運営主体となってミドルリーダー養成研修プログラムを実施し、山口県の教員のミドルリーダーとしての資質能力を高めることを企図してきた。

また、教職大学院は、プログラム実施に際して、教職大学院の特徴、機能やリソースを積極的に活用し、山口県教育の充実深化に資する「地域科目」を中心とした教職大学院カリキュラム開発を創造してきた。

この中から、教員（ミドルリーダー）の資質向上に資するプログラム開発（企画・運営・評価）のポイント、配慮事項を以下のとおり整理する。

- (1) 山口県における現代的教育課題、将来的に現出が予想される教育課題等と、開発プログラムにおける研修内容の整合
- (2) 県内市町巡回型によるミドルリーダー養成研修の実施による教職大学院の地域貢献・教員研修機能の拡充、各市町域における教員研修の活性化、各市町教委（指導主事、社会教育主事等専門的職員）の力量形成の相乗
- (3) 教職大学院（院生や教員）として地域課題、山口県教育課題へアプローチすることによる院生の力量形成と大学院（学部）教育の質的改善
- (4) 教職大学院カリキュラムを構想する上での地域科目開設の意義の共通理解、実施運営の方途等に関する実践的研究の前進
- (5) 自主的、主体的に自らを高めるプレミドルリーダー集団の形成、「ピア・サポート」の効果的導入、講義演習型研修の開発における工夫改善
- (6) 県・市町教育委員会主催教員研修等と相乗する研修プログラムの具体研究

2. 大学と教育委員会の連携・協働にあたって

本プログラムでは、その開発において山口県教育委員会（市町教育委員会）と密接に連携協力し、多大な支援を得て、良好な関係を築いてきた。

特に、研修カリキュラム作成、講師選定、広報周知、受講者募集や対市町教育委員会・対学校の連絡調整等に向けた緊密な連携が進展した。教員の養成・採用・研修の一体化に向けた機運の醸成や教職大学院の充実（カリキュラム開発、課題解決プロジェクト研究、地域連携の充実等）に向けて、この経験を活かし今後の取組を進めていくべきである。

本プログラムが対象とするミドルリーダー養成は山口県に限らず全国共通の課題であり、本プログラム開発は各地のミドルリーダー育成プログラムや私立学校を含む現職教員研修の開発、工夫改善に資するものである。大学と教育委員会には、課題とされるミドルリーダー育成研修に協働してあたりその成果を検証することをとおして、今後の教員養成、教職研修システムを改善することが期待される。

そこで、今後の大学（教職大学院等）と教育委員会との間で連携・協働できるポイント、配慮事項を以下のとおり整理する。

- (1) 研修内容や方法の検討、講師選定、広報周知や対教委・対学校の連絡調整等での連携
- (2) 受講生確保（募集や広報等）にかかる市町教育委員会や学校等への広報周知や情報提供に関する連携
- (3) 教育委員会主催教員研修等との相乗に関する協議や既存プログラム（ミドルリーダー養成研修、経験教員研修、総合的な教師力向上のための調査研究事業、若手人材育成の強化・加速1000日プラン、中堅教員段階の管理職候補者育成プログラム等）との合同・共同・融合に向けた連携
- (4) やまぐち総合教育支援センター、市町教育委員会、教育関係機関等との連携調整に関する連携

3. 教職大学院や学部における教員養成・研修の活性化にあたって

本プログラム開発では、多くの教職大学院（教育学研究科）や学部教員を参画させることにより、学校現場と結びついた実践的研究の拡大、教員養成や人材育成の充実、教職大学院（教育学研究科）や学部機能の充実につながることができた。多くの大学関係者の理解や協力も得られ、意識改革と現職教員研修に対する積極的な関わりの雰囲気醸成できた。

特に、実務家教員と研究家教員が一体となった実践研究は、本教職大学院がめざす教授スタイル、教育課程編成の特色の一つであり、今後の学校現場と結びついた実践的研究の拡大、実務家教員や交流人事教員のコーディネート機能の充実等につないでいくことが大切と整理する。

V その他

- [キーワード] 教職大学院、カリキュラム開発、地域科目、ミドルリーダー養成、協働型教職研修、見識とスキル、学校課題の解決、省察力の育成、機関連携
- [人数規模] D. 51名以上（登録受講者数39人、延べ参加者数285人、大学教員・関係者等を含む総研修参加者数410人）
- [研修日数（回数）] D. 研修会行事に限定の場合は10日
ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course 10回
ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course 単独研修6回 + ちゃぶ台次世代コーホート 乗り入れ研修4回
- [研究分担者等] 研究代表：岡村康夫（山口大学大学院教育学研究科 研究科長 教授）
研究担当：霜川正幸（同 教職実践高度化専攻 教授）
研究分担：和泉研二（同 副研究科長 教職実践高度化専攻 教授）
佐々木司（同 教職実践高度化専攻 専攻長 教授）
鷹岡 亮（同 教授）
静屋 智（同 教授）
前原隆志（同 教授）
松岡敬興（同 准教授）
藤上真弓（同 講師）
村上清文（山口大学教育学部 教授）
中田 充（同 教授）
長友義彦（同 教授）
佐々廣子（同 アドバイザー）
浦田敏明（同 アドバイザー）
長砂志保（同 医学部 係長）
久保田尚子（同 事務補佐員）
- 【問い合わせ先】 山口大学大学院教育学研究科 教授 霜川正幸
〒753-8513 山口県山口市大字吉田1677-1
TEL&FAX：083-933-5458 E-mail：m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp
山口県教育庁教職員課 主査 大下康一郎
〒753-8513 山口県山口市滝町1-1-1
TEL&FAX：083-933-4550 E-mail：a50200@pref.yamaguchi.lg.jp